

編集後記

『哲学の探求』第 51 号が無事に発行されることをうれしく思います。論文執筆者のみなさま、編集協力者のみなさまのご協力のおかげで、編集作業は何事もなくほぼスケジュール通りに進行し、今回も年度内の発行を実現できました。多くの場合、キャリア形成の初期段階にある研究者にとって論文がすぐに刊行されることは重要であるため、遅れを出さずに無事発行できたことで胸をなでおろしています。編集協力者のみなさまには、丁寧な校正、コメントの労を取っていただきました。感謝申し上げます。

今号は、昨年 7 月に開催された研究集会で行われたテーマレクチャー「〈ケアの倫理〉と〈倫理学〉」より、安井絢子先生、佐藤岳詩先生にご寄稿いただいております。また、個人研究発表からは 10 名のみなさまにご執筆いただいております。さまざまな主題に関する、いずれも充実した内容となっていると思います。これらの論文が哲学の探求の進展に寄与することを願っています。

今号では、誌面レイアウトの若干の変更を行いました。サイズは本誌第 49 号からの A4 のものを維持しつつ、余白と行間を前号までより広く取り、またタイトルや節見出しなどのサイズを少し大きくするよう改めました。この変更が本誌の可読性の向上につながっていればうれしく思います。

本誌完成にご協力くださったみなさまに重ねて厚く感謝申し上げます。

『哲学の探求』編集担当 米倉悠平

『哲学の探求』第 51 号が無事に発行するためにご協力くださったテーマレクチャーの先生方、論文執筆者の方々、編集協力者の方々に心より感謝申し上げます。とりわけ、編集協力者の方々が一度の募集で十分な人数集まったことは、個人的には嬉しい驚きでありました。それは、校正作業を行うための人手が揃ったことへの嬉しさではありません。キャリアの進展とともにそれではなくなっていくところの「若手」—その意味については 2023 年度全体会資料 8 頁をご参照ください—をほとんど唯一の結びつきの原理とする若手フォーラムという場の維持に、見返りを求めることなく貢献してくださるという一人一人の意思表明を嬉しく思ったのでした。『探求』の発行が今年もフォーラムの一年のサイクルが無事に完結したことを告げることで、皆様の意思に対する応答となっていることを願うばかりです。

7 月にフォーラムの運営委員となったばかりの私には慣れないことばかりで、委員として 1 年先輩の米倉さんにスケジュール管理のような大枠の設定から、細かい作業の進め方に至るまで助けていただくことが多々ありました。Slack の編集チャンネルで幾度となく押し、押された「感謝」のスタンプではありましたが、今一度この場を借りて深く感謝申し上げます。

フォーラムの運営委員の慣例として、編集委員は 2 年目も役職を変えずに務めることとなっています。来年度も開かれた場としての『哲学の探求』のクオリティを追求したいと思います。

最後に、本誌に携わったすべての方々に改めて感謝申し上げます。

『哲学の探求』編集担当 石川知輝